

私の一文字「岐」

副代表幹事
財政健全化委員会 委員長
佐藤 義雄

住友生命保険
取締役会長代表執行役



経営者は覚悟を持って“岐路”へ挑め

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第9回にご登場いただいたのは、佐藤義雄副代表幹事です。

佐藤 世の中を見渡すと、今は時代の分かれ道、大きな岐路に差し掛かっているように思います。文字を選ぶにあたっていろいろ悩みましたが、「岐」を私の一文字としました。

岡西 「岐」は「山」の象形と「支える」という文字からなっています。支は木の枝を手で持っている会意兼形声文字*です。枝は「えだわかれましたもの」ということから、岐は山の分かれ道という意味になったそうです。

佐藤 世界では、米中の対立、英国のEU離脱、各国でのポピュリズム政権の樹立など、既存の国際協調体制の枠組みを揺るがす動きが起こり、そして国内では深刻化する少子高齢化と歴史的な財政状況の悪化に直面しています。そんな「岐」にあって、私たち経営者は強い覚悟と信念を持ってこの難局に挑む必要があるのではないのでしょうか。

岡西 この文字を書くときに、分かれ道において方向を決めるときの潔さ、決断力を最後の一线に込めました。ところで佐藤さんにとっての分岐点はどんなことでしたか。

佐藤 やはりバブル崩壊後の後処理です。当時は安定株主として多くの取引先の株式を保有していましたが、底の見えない株価下落により、当社自体の存続が危うくなり、さらなる株価下落リスクには耐えられないという状況の中で、会社と社員を守り、お客さまの信頼に応えるために、担当役員として保有株式売却という厳しい決断を迫られました。



岡西 岐路において、選択する判断基準はなんですか。

佐藤 やはり「強い覚悟と信念を持って、やるべきことをやる」ということです。株式売却については、取引先企業に事情を説明しても簡単には了承いただけず、また社内の営業部門の反対も非常に強いものがありました。しかし、お客さまの信頼に応えるという信念を持って、粘り強く交渉し、この状況を突破するしかありませんでした。

岡西 社内の調整も大変だったんですね。

佐藤 もう一つ思い起こされるのは、保険金の支払い問題です。お客さまからのご請求がないまま、多くの保険金・給付金が未払いとなっていたという業界全体を揺るがしたこの大問題の渦中に、私は社長に就任いたしました。いかにしてお客さまの信頼を回復するか、これも私にとっては大きな「岐」であったと思います。

岡西 どう打ち破ったのですか。

佐藤 私の座右の銘に「^{ぎやくじふしん}逆耳忠言」という明代の古典「菜根譚」の言葉があります。私が41歳で支社長に就任するときに、当時の名誉会長の新井正明氏にこの言葉をいただきました。忠告や諫言は、心地いいものではない。だが、これにきちんと対応するかどうかで、人間としての器量が問われるだけではなく、その後、その人が成長を遂げるかどうかの分かれ道となる、ということをこの言葉は説いています。お客さまからの声、そして営業の第一線の現場の声を大切にし、方向を見誤らないように努めました。

岡西 経済同友会ではどんな活動を考えられていますか。

佐藤 経営者の立場からこの国の行く末をどう見ていくか。そういった意味でも、財政・税制は大きな問題なので、引き続き、この問題に取り組んでいきたいですね。特にAIやデータの問題が税制や財政にどんな影響を与えるかを勉強していきたいと思っています。

*二字以上の漢字の字形・意味を合わせた会意文字と、音を表す字と意味を表す字を合わせた形声文字の特徴を併せ持つもの。

書家 **岡西 佑奈**

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。